

第64回 日本透析医学術集会・総会 が

2019年6月28日（金）～ 30日（日）の3日間

パシフィコ横浜にて開催されます。

当院からは 吉岡伸夫 院長 が 座長 をされます。

また、3名の臨床工学技士の学術発表がありますので、

ご紹介させていただきます。

主任	二神徳明	臨床工学技士
チーフ	田村尚紀	臨床工学技士
	溝口陽裕	臨床工学技士

English



第64回 The 64th Annual Meeting of
the Japanese Society for Dialysis Therapy

日本透析医学会学術集会・総会

2019. 6/28 ▶ 30
パシフィコ横浜

トップページ

会長挨拶

開催概要

プログラム

参加者へのご案内 NEW

司会・座長・発表者へのご案内 NEW

一般演題・公算演題登録

指定演題登録

英文一般演題募集

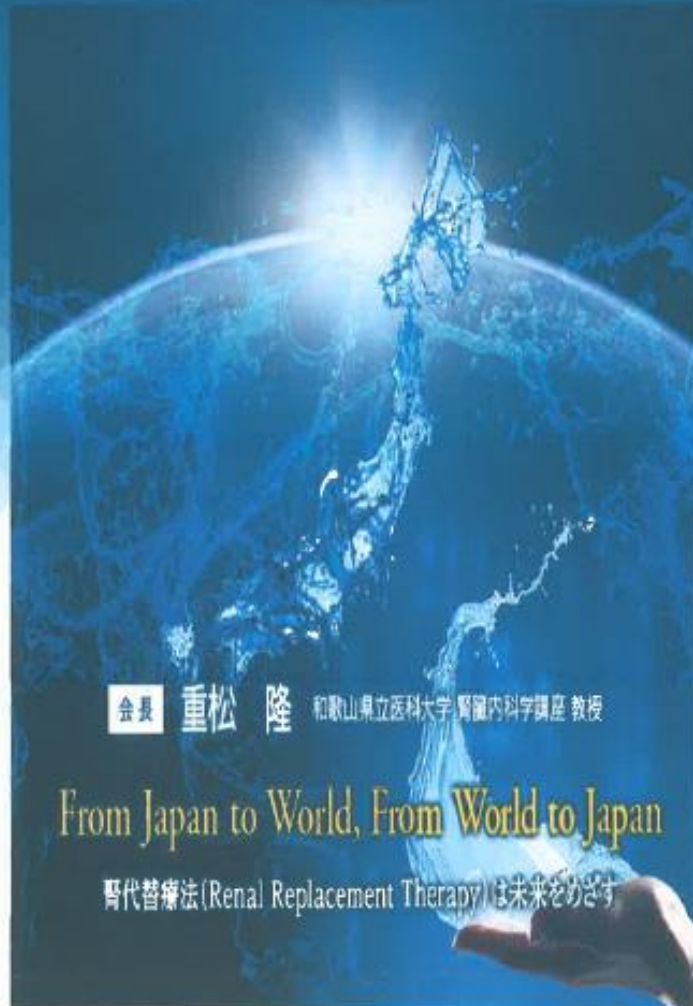
利益相反(COI)について

企業展示・共催セミナー

共催セミナー一覧 NEW

事前参加登録

単位取得について NEW



会長 重松 隆 和歌山県立医科大学 腎臓内科学講座 教授

From Japan to World, From World to Japan

腎代替療法(Renal Replacement Therapy)は未来をめざす

On-line HDF による Polyflux 210H(Polyflux) の性能評価

(医)康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

二神徳明¹⁾ 田村尚紀¹⁾ 山田早悠里¹⁾ 野口 幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾ 渡邊美智子²⁾ 赤澤 愛²⁾
吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【目的】

3層構造からなる PAES を使用した Baxter 社製 Polyflux とニプロ社製の MFX-Meco(MFX)の溶質除去性能を比較検討した。

【対象・方法】

当院透析患者 10 名を対象とし、治療条件は、QB280ml/min、QD600ml/min、QS250ml/min とした。比較項目は UN、Cre、UA、IP、 β_2 -MG、 α_1 -MG の除去量、除去率、クリアスペースとした。 β_2 -MG、 α_1 -MG、ALB 漏出量は 1 時間毎の除去量と総除去量とした。TMP、白血球、血小板の変化率を時間毎に比較した。

【結果】

UN、Cre、UA、IP は除去量、除去率、クリアスペースで有意差は認めなかった。 β_2 -MG の除去率は Polyflux が有意に高く、 α_1 -MG のクリアスペースでは Polyflux が有意に多かった。ALB 漏出量は、Polyflux がすべての時間で有意に多く ($P < 0.01$)、総 ALB 漏出量も有意に多かった。TMP は、すべての時間で Polyflux が有意に低かった ($P < 0.01$)。WBC と Plt は有意差を認めなかった。

【結語】

Polyflux は MFX に比べ β_2 -MG と α_1 -MG の除去性能に優れていた。ALB 漏出量においても Polyflux が高値であったが、ALB 漏出量が 1 g 以下で抑えられていることから、高齢者の On-line HDF に有効な可能性が示唆された。

肝硬変による難治性腹水を合併した透析患者に PD カテーテルを用いて CART を施行した 1 例

(医) 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

田村尚紀¹⁾ 二神徳明¹⁾ 野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾ 渡邊美智子²⁾ 吉岡伸夫²⁾

【はじめに】当院では PD から HD に移行する場合 EPS を予防する目的で一定期間 PD カテーテルを温存している。今回、多量の腹水を認めたためにカテーテルを用いて CART を実施した症例を経験したので報告する。

【症例】60 歳台女性。アルコール性肝硬変があり肝萎縮が著明である。糖尿病性腎不全で 2008 年 9 月 PD カテーテルを留置し CAPD を開始。2014 年 5 月腹膜機能低下による除水不良のため HD へ移行した。HD 移行後、週 3 回の HD 前に温存しているカテーテルで腹腔洗浄を行っていたが最大 3500ml まで排液が増加、低 Alb 血症、低蛋白血症が進み、全身倦怠感を訴えたので、2017 年 10 月より 2 週間毎、計 16 回 CART を実施した。Alb 値は治療前 2.4 から 2.7g/dl、TP 値は 5.5 から 6.4g/dl に改善、CRP 上昇や PD 腹膜炎発症もなく良好な経過を辿っている。

【結語】非代償性肝硬変による難治性腹水は治療が困難であるが、PD 看護師と臨床工学技士の連携により、温存されていた PD カテーテルを用いて安全にかつ簡便に CART を実施することができた。

シャント狭窄率が透析中の脱血量に与える影響～超音波式血流計（HD02）を使用して～

(医)康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

溝口陽裕¹⁾ 松田竜馬¹⁾ 市谷和也¹⁾ 益田百合子¹⁾ 中島大志¹⁾ 明石清忠¹⁾ 二神徳明¹⁾

野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾ 渡邊美智子²⁾ 赤澤愛²⁾ 古岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【目的】 HD02 は透析血液回路にセンサを接続するだけで脱血量を測定することができる。今回 HD02 を使用しシャント狭窄率が脱血量に与える影響を検討した。

【対象・方法】 当院維持透析患者 34 名の内、シャントエコーで 50%以上の狭窄率がある患者 17 名（狭窄群）と狭窄がない患者 17 名（非狭窄群）を対象とした。透析開始時と 1 時間ごと（合計 5 回）に血液ポンプを、150mL/min、200mL/min、250mL/min の各流量に設定し、HD02 の測定値と血液ポンプの設定値の差を狭窄群、非狭窄群で比較した。さらに、血液ポンプの各設定値と時間毎の除水率の関係を HD02 で比較検討した。

【結果】 狭窄群では非狭窄群と比し有意に脱血量の低下を認めた ($P<0.05$)。さらに、狭窄群は設定血流量 200mL/min 以上では除水率が増加するにつれて脱血量が低下した ($r=0.3$, $P<0.05$)。

【結語】 シャント狭窄率 50%以上ある透析患者の脱血量は狭窄率と循環血液量に影響されることが示唆された。